



## エリートツリーの開発と特定母樹による普及

育種部長 高橋 誠

エリートツリー（第2世代以降の精英樹の総称）は、平成23年度に関東育種基本区で18系統のスギエリートツリーが最初に開発されました。それを皮切りにスギ、ヒノキ、カラマツ、トドマツ等、主要な林業樹種で開発が進み、令和4年度末現在、全国で1,145系統のエリートツリーが開発されるまでに至りました。

今後の健全な森林整備のためには、遺伝的に多様な優良種苗を用いることが重要であり、このような遺伝的多様性の確保という観点から全国の各地域（育種基本区）で、多数のエリートツリーの開発が進んでいます。

また、エリートツリーの普及にあたっては、間伐等特措法に基づき特定母樹の指定が進められています。現在、エリートツリー等の中から、特定母樹の指定基準を満たす優良な系統506系統（令和5年9月現在）が特定母樹に指定されています。

エリートツリーや特定母樹の優れた成長性が、林業の収支改善や二酸化炭素の吸収・固定にプラスの効果をもたらすと期待されています。「みどりの食料システム戦略」（農林水産省）や「森林・林業基本法」（林野庁）といった国の施策にもその活用が位置付けられ、普及が加速しつつあります。

これらのエリートツリーを主体とする特定母樹の更なる普及促進のためには、エリートツリー等の優

れた特性について森林・林業関係者に理解を深めていただくことが重要です。このため、特定母樹に指定されたエリートツリーの実際の林地における生育状況を確認し、従来の苗木の成長等と比較できる展示林の整備を進めています。

また、特定母樹から生産した種子や穂木（種穂）からの苗木（特定苗木）の生産が進むためには、事業的な規模で種穂を生産するための採種園や採穂園への特定母樹系統の導入が進むことが重要です。一方で、特定母樹は指定されている系統数が多く、どの系統を選定すべきか判断に迷うことがあるとお聞きします。

このため、各地域において採種園や採穂園に導入する系統を選定する際の一助として特定母樹に指定されたエリートツリー等の特性表の作成・公表を進めており、最初の特性表を今年度公表するべく準備を進めています。

展示林の整備にあたっては、展示林の設定に適した用地の確保や設定後の適切な保育が、特性表の作成・公表にあたっては、そのベースとなる特性データを幅広く集積する必要があります。このため、林木育種センターでは、都道府県や森林管理局等の森林・林業関係機関・関係者と連携を図りながら必要となる調査・研究等を進めていきます。

### 【紙面紹介】

深層学習を用いたスギ花粉の発芽率測定の高効率化  
..... 2～3  
コウヨウザンの産地試験の設定.....4  
都道府県等への技術指導について.....5

高精度・制御可能な改良型ゲノム編集技術について  
.....6  
林木育種事情調査  
台湾の森林・林業事業及びテリハボクの共同研究状況  
..... 7～8



国立研究開発法人 森林研究・整備機構  
森林総合研究所林木育種センター

Forest Tree Breeding Center, Forestry and Forest Products Research Institute